



講演する鶴田廣巳氏(右)と本田宏氏

## サマーセミナー2016

社会保障財源のあり方や医師不足の背景などについて学ぼうと、協会はサマーセミナーを8月21日、M&Dホールで開いた。午前の部は関西大学教授の鶴田廣巳氏が「日本の財政と社会保障財源のあり方」をテーマに講演。午後の部は市民講座として、NPO法人医療制度研究会副理事長で外科医の本田宏氏が「本当の医療崩壊はこれからやってくる」をテーマに話した。60人が参加した。

# 政治の転換で医療再生へ

## 本田宏氏「偏った報道見極めよう」

### 医療は経済効果大きい

関西大学教授・鶴田廣巳氏

鶴田氏は、日本の社会保障制度による貧困削減効果がOECD諸国中最低の水準となっていることを紹介し、「所得再分配が機能しておらず、社会保障の名に値しない」と指摘。政府が進める「社会

説明は偽りだ」と話した。社会保障制度を立て直すための戦略として、

### 医師の地域偏在は誤り

医療制度研究会理事長・本田宏氏

本田氏は、「臨床の現場でまじめに働いているだけでは、医療は悪くなる。政治がよくならないと医療はよく

「福祉優先型経済モデル」を提唱。医療分野の経済波及効果が他産業に比べて大きいことを示し、社会保障への予算投入の必要性を訴えた。その上で、財源として、所得税や法人税の活用に加え、富裕税の新設や社会保険料の累進強化などを提案した。

る。メディアは、日本の医療費は財政を圧迫する原因であり、国民の負担率は低い。医師の数も足りており地域偏在が問題である」と政権に擦り寄った報道を続けている。本田氏は、データを元に、日本の医療費が国際的には低く抑えられており、患者負担も高く設定されていること、医師の絶対数が足りておらず、地域偏在も誤りであることを明らかにした。最後に本田氏は、医療の再生には投票率向上が必須であり、患者第一の視点で政治に参加していくことが重要であると訴えた。

参院選の結果、国会では「改憲勢力」が3分の2以上の議席を占めた。安倍晋三首相は在任中の憲法改正に意欲を示し、改憲発議が現実味を帯びている。自民党はどんな日本へつくり変えようとしているのか。自民党改憲草案に危機感を抱き、立ちあがった若手弁護士



在任中の改憲を狙う安倍首相(首相官邸サイトから)

法とは、自由とは、人間とは、価値が違い、平等も自由もありませんでした。しかし「人とは何か」「国家とは何か」という世界観が、大きく変わっていきました。「人は生まれながらにして自由

の価値が違い、平等も自由もありませんでした。しかし「人とは何か」「国家とは何か」という世界観が、大きく変わっていきました。「人は生まれながらにして自由

### 価値

また、国家

とは、人間が

自由や平等を

確保なもの

とするために必要だから

つくる枠組みなのだ、と考

えられるようになりまし

た。国家に、あえて力

(権力)を託し、ルール

の作成・罰則の適用や税

金の使い道など政治を任

せることにしたのです。

それでは、国民が権力

に政治を託したまま、そ

執筆などに奔走中。

## 近代国家「やめます」宣言

2016年3月、安倍晋三首相は国会答弁で、憲法改正について「私の在任中に成し遂げたいと

を獲得した今、憲法改正は思い切り現実的な問題として、国民に迫ってき

### 岐路

イマドキの改憲 1 自民党草案を考える 明日の自由を守る若手弁護士の会 共同代表・黒澤いつき

それでは自民党は、一体どのような憲法「改正」を提案して、どのような国家を目指している

「近代国家をやめます」という宣言にも等しい改憲草案が政権党の悲願として掲げられている日本。私たちは真剣に、憲

特権階級と人民とでは命

を

くろさわ・いつき 東北

今日の数字 57万6千 2015年度の支払基金取り扱い分の歯科の査定件数。査定点数は7170万点。

現代人の思考経路には2千数百年経てもほとんど進化が見られない。

国民投票によって国体が瞬時に変わってしまう、今の民主主義の不安材料が露呈してきている。大昔の民主主義は戦争で捕まえてきた奴隷の労働余剰生産物の上で沐浴しながら元老たちが話し合いで施政を決めた。実務は官僚が行ったから行政と立法が分離し始めた。独裁政治でも官僚は不可欠で、急な政権交代時にはそのまま引き継いだ。政治が腐敗しても健全な官僚がいれば国民は相応の安心を持てた。程度によるが、官僚まで腐敗すると国は持たない。国が潰れると他国の餌食になる。これが共生というスタイルの例外もあるが、弱肉強食を自然の掟とする動物の一種のヒトの実情である。

歯界 国民投票によって国体が瞬時に変わってしまう、今の民主主義の不安材料が露呈してきている。大昔の民主主義は戦争で捕まえてきた奴隷の労働余剰生産物の上で沐浴しながら元老たちが話し合いで施政を決めた。実務は官僚が行ったから行政と立法が分離し始めた。独裁政治でも官僚は不可欠で、急な政権交代時にはそのまま引き継いだ。政治が腐敗しても健全な官僚がいれば国民は相応の安心を持てた。程度によるが、官僚まで腐敗すると国は持たない。国が潰れると他国の餌食になる。これが共生というスタイルの例外もあるが、弱肉強食を自然の掟とする動物の一種のヒトの実情である。